

下妻市内の事業説明会に
自治区長や地域住民など120人参加

国交省下館河川事務所、茨城県、下妻市の3者は4月16日、関東・東北豪雨災害による鬼怒川堤防決壊を踏まえた今後の対策として、県内で進める治水事業「鬼怒川緊急対策プロジェクト」の概要や進め方を沿川住民に広く伝えることを目的に事業説明会を実施しました。午前9時30分から市立図書館、午後1時から千代川公民館の2か所での開催に、自治区長や地域住民など延べ120人が参加しました。



参加者からの質問に回答する国交省職員(下妻市立図書館で)

説明会では稲葉市長は、「鬼怒川沿岸の皆さんは、いつ堤防が決壊するかも知れない不安に心が休まることがなかった。市として鬼怒川の堤防改修や無堤区域の築堤などを国土交通省に要望してきた。いち早くハードとソフトが一体となった緊急的な治水対策を講じていただき感謝している」とあいさつ。里村下館河川事務所長は「災害に対して先手を打てるよう、タイムラインを作るだけでなく、皆さんと訓練して使いこなせるようにならないといけない。全国に先駆けてお手本になるようなものを確立していきたい」と抱負を語りました。

説明後に参加者からは、「避難後の防犯対策が肝心」「定期的に勉強会を開いてもらいたい」などの意見や要望がありました。説明会終了後、溢水被害が発生した前河原地区の須藤芳夫代表区長は「プロジェクトを進めてもらいたい。地元には(住民が)集まる機会に情報を伝えていきたい。原・羽子地区で自宅が被災したという猪瀬憲一代表区長は「詳細が分かってきたことは地域に伝えて、訓練などにも協力していきたい」と話していました。

下妻の「なし」と「きゅうり」が銘柄産地の指定更新

農業の振興

下妻市で生産する「なし」と「きゅうり」が茨城県青果物銘柄産地の指定更新を受け、県筑西合同庁舎で3月30日、指定証の交付式が行われました。

交付式では、県西農林事務所の小野田所長から稲葉市長に「なし」の指定証が手渡されました。同席した下妻市果樹組合連合会の大塚会長は「銘柄産地の名に恥じないよう、安全でおいしい大玉の生産に取り組む。組合員一同、心を一つに頑張っていきたい」と意欲を示しました。

「きゅうり」は下妻市と常総市が産地となることから、常総市の小室産業労働部長が指定証を受けました。JA常総ひかりできゅうりの出荷等を担当する植田営農課長は「後継者対策やコンテナ出荷による新たな取り組みの成果が出てきた。市場の強い信頼を得ており、生産者の励みになる」と喜びを語りました。

下妻の「なし」は平成3年度から、「きゅうり」は昭和62年度から銘柄産地の指定を受けており、県を代表する産地として高品質で、信頼性・安全性が市場で高く評価されています。



銘柄指定証を手にする稲葉市長(前列右から4番目)や農業関係者

ふるさと納税

全国から「ふるさと下妻寄附(ふるさと納税)」をいただきました
平成27年度寄附額：1,370万966円(683件)

平成20年度から受け付けを始めて、寄附件数が年々増加している「ふるさと下妻寄附(ふるさと納税)」。

平成27年度は、全国から683件、総額1,370万966円の寄附をいただき、平成20年度からの寄附の累計額は4,000万円を超えました。

市では、寄せられた寄附金をいったん基金として積み立てた後、寄附者の皆さまからのご要望に応じて、それぞれの事業に充当しています。

なお、寄附された方の中で、お名前の公表に承諾された方や届いたメッセージを、市ホームページに掲載しています。心温まるご寄附ありがとうございました。



ふるさと下妻寄附

問い合わせ 企画課 ☎43-2113

平成27年度の活用状況

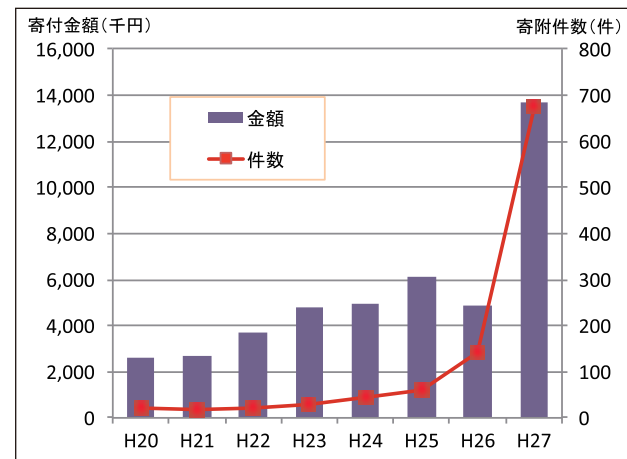
「ふるさと下妻寄附(ふるさと納税)」の平成27年度の活用状況は次のとおりです。

- 安全安心都市に関する事業 (福祉・子育て・医療・防災・防犯等)
- 市消防団へ消防ポンプ自動車の配備



「ふるさと下妻寄附」を活用して購入した消防ポンプ自動車(平成28年2月25日納車)

「ふるさと下妻寄附」受入の推移



有料広告欄

鬼怒川堤防等整備予定図

